

開会のご挨拶

2023年10月31日

クロスセクター効果研究会
代表

土井 勉

「クロスセクター効果」への道のり

地域公共交通の持つ役割を定量化したい...

⇒定性的な説明も重要だけれども

⇒コミュニティバスの年間補助金が3,000万円

⇒バスを使わない人たちにも納得いただくためになんとか定量化したい

1990年代にEUを中心に「クロスセクターベネフィット」
なかなか難しい...算出する人によって結果が異なる？

「クロスセクター効果」への道のり

⇒西村・土井・喜多:「社会全体の支出抑制効果からみる公共交通が生み出す価値—クロスセクターベネフィットの視点から—」,土木学会文集,2015年1月

⇒コミュニティバス等を念頭において、現在のCSEの枠組みができる。

⇒近畿運輸局リーフレット,2018年3月

⇒西村・東・土井・喜多:「クロスセクター効果で測る地域公共交通の定量的な価値」,土木学会文集,2019年12月

CSE=Cross Sector Effects

地域公共交通
赤字=廃止でいいの?



地域公共交通が**廃止**になったら、
医療送迎やスクールバスが必要となり、
現在の補助金より行政コストが増加するかもしれません

ちょっと**計算**してみませんか?

 近畿運輸局

CSEの算出事例が増えてくると



状況に対応して合わせて模索・試行錯誤…

一方で政策判断を委ねる指標としての活用も増加
体系化を図らないと(誰が算出しても同じ結果になる)

⇒北陸信越運輸局:簡易算出ツール,2021年3月

体系化への模索

⇒有志の皆さんと「CSE研究会」、2021年4月～

⇒設立主旨：研究会がめざすこと

- ①CSEの取組の普及
- ②CSE算出方法の洗練化
- ③「CSE算出のためのガイドブック(案)」作成
- ④CSE研修会の開催
- ⑤行政分野以外のCSEの定量化に関する研究
- ⑥情報発信

⇒有志、ボランティアで月1度程度、オンラインで意見交換

体系化への模索

「CSE標準版ガイドライン」

⇒様々な事例を持ち寄り、共通する部分を抽出

⇒個別のケースについては「オプション版」

単価等は毎年度変更が想定されるので、2023年度版

⇒皆様へのお願い:まだまだ開発途上なので

CSE目的の共有(補助、政策、ドライバー不足等)

算出事例の共有(大規模～過疎地交通など)

疑問、立ち止まった事象の共有

広義のCSEについてもチャレンジ

定量化のトラップにもご用心

CSE算出結果がプラスだ！そこで思考停止せずに、どんな改善や改良が可能かなどに取り組んで下さい

CSE算出結果がマイナスになる場合もあります。ここで落胆せずに、なぜマイナスになったのか…と考えることは、地域にとってより望ましい移動支援策を考える契機になる可能性があります。

お礼

本日の講習会にご参加いただいた皆様

ボランティアで「ガイドライン」をとりまとめていただいた研究会の皆様

本研修会でご登壇をいただいた皆様

当日の運営をサポートいただいた皆様

共催者として、「ガイドライン」の電子書籍化、様々なご支援をいただいた地域公共交通総合研究所の皆様

ご参加の皆様にも少しでも役立てる
ような活動に取り組んでいきたいと思っております